

ミダスの河

名探偵・浅見光彦vs.天才・天地龍之介

柄刀 一・著

出版社: 祥伝社

四六判ハードカバー 546ページ

発売日: 2018年7月11日

文庫710ページ

発売日: 2020年12月8日

〈あらすじ〉

浅見光彦は末梢血幹細胞移植を受ける少女の取材に甲府を訪れたが、ドナーの女性が何者かに連れ去られてしまい行方を追う。一方、天地龍之介は従兄弟の光章たちと山梨県の重川に砂金採りに訪れていたが、事故を起こした車から死体が落ちてくる場面を目撃。その車の助手席はなぜか金色に輝いていた。二つの別々の事件を追う浅見と龍之介が出会った館では不可解な事件が起こる。被害者を死に追いやることができたのは浅見光彦か天地龍之介だけ……。事件の鍵は武田信玄の埋蔵金伝説と触れる物すべてを黄金に変えてしまうギリシャ神話のミダス王!

※文庫には巻末に北海道情報大学 情報メディア学部の谷口文威氏による解説を収録。

〈登場人物〉

浅見光彦 (あさみ みつひこ) ……フリーのルポライター。お化けと飛行機が苦手。愛車はソアラ。身長179cm、血液型はB型。警察庁刑事局長の兄を持つ名家の次男坊。33歳。好奇心と正義感で数々の難事件を解決。独身。

天地龍之介 (あまち りゅうのすけ) ……小笠原諸島で育ったIQ190の天才。ちょっと天然で生活力はゼロ。従兄弟・光章のフォローを受ける。秋田で生涯学習施設の所長を務める。30歳近くになっても童顔。驚異の博覧強記ぶりで難事件を解決。独身。

〈著者略歴〉

柄刀 一 (つかとう はじめ)

1959年北海道生まれ。1998年に『3000年の密室』でデビュー。主な著書に、龍之介シリーズの他、『ifの迷宮』『マスグレイト館の島』『シクラメンと、見えない密室』『時を巡る肖像』『密室キングダム』『モノクロームの13手』『猫の時間』『月食館の朝と夜 奇蹟審問官アーサー』など多数。天地龍之介のシリーズは、2001年刊行の『殺意は砂糖の右側に』を皮切りに、これまでに12冊、長編・中編・短編合わせて42作品が発表されている。2007年、取材のため訪れていたイタリアで内田康夫夫妻と出会う。また、内田康夫の著作『イタリア幻想曲』(角川文庫判)の解説も手がけている。